

令和3年度保育士自己評価

保育所保育指針では「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士などの自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容などについて自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。このことに基づき当園では毎年自己評価をしております。
評価の結果を踏まえ今後もよりよい保育を提供できるよう努力していきます。

<評価について>

評価にするにあたっては以下のようなチェックリストで評価しました。

自己評価対象	評価	
第1章 総則 教育・保育の基本 (93項目)	84%	自園の保育理念や目標を理解しているが説明できるようになること。 特別支援（障害時保育）のさらなる理解が必要。 育みたい3つの資質・能力10の姿を漠然と捉えている。
1. 教育・保育の基本 (14項目)	95%	
2. 教育及び保育の配慮 (14項目)	93%	
3. 教育課程・全体的な計画、指導計画作成と評価 (35項目)	79%	
4. 特別支援教育・障害児保育 (9項目)	67%	
5. 「育みたい3つの資質・能力」と「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」(7項目)	64%	
6. 子どもの発達 (14項目)	96%	
第2章 「ねらい」及び「内容」 (190項目)	94%	こどもひとり一人を丁寧に保育していくことの大切さをそれぞれが理解できている。
1. 乳児保育に関わるねらい及び内容 (30項目)		
(1) 身体的発達に関する視点「健やかに伸び伸びと育つ」	96%	どんな状況であっても、穏やかな気持ちで丁寧に関わることの大切さを改めて感じた。 子どもの発達課程に応じた適切な玩具を準備できていないこともあるので、発達をよく理解し玩具の見直しをしていくことが必要。
(2) 社会的発達に関する視点「身近な人と気持ちが通じ合う」	95%	
(3) 精神的発達に関する視点「身近なものに関わり感性が育つ」	98%	
2. 1歳児以上3歳児未満の保育に関わるねらい及び内容		
(1) 健康 (10項目)	99%	
(2) 人間関係 (10項目)	99%	日頃の保育に追われ、つい急がせる言葉かけになったりすることに反省する。子ども自身で考えていけるような言葉かけができるよう自身にゆとりをもつ。
(3) 環境 (10項目)	95%	
(4) 言葉 (10項目)	98%	
(5) 表現 (10項目)	98%	
3. 保育の実践に関わる配慮事項（乳児・1歳以上3歳未満児）(10項目)	90%	
4. 3歳以上児の保育に関わるねらい及び内容		数年続くのコロナ禍で衛生管理と健康管理に十分配慮しながら保育してきた。災害に対する危機感を常に持っていることが必要。
(1) 保育内容「健康」(20項目)	98%	
(2) 保育内容「人間関係」(20項目)	93%	
(3) 保育内容「環境」(20項目)	92%	
(4) 保育内容「言葉」(20項目)	98%	
(5) 保育内容「表現」(20項目)	91%	ここ数年コロナ禍において園庭開放を中止したり地域における子育て支援は満足にはできていない。また、地域の子育て支援の理解度が低い職員もいた。
第3章 健康および安全 (49項目)	89%	
1. 健康支援 (14項目)	93%	
2. 食育 (11項目)	92%	
3. 環境・衛生管理・安全管理 (11項目)	90%	ここ数年コロナ禍において園庭開放を中止したり地域における子育て支援は満足にはできていない。また、地域の子育て支援の理解度が低い職員もいた。
4. 災害への備え (13項目)	88%	
第4章 子育て支援 (18項目)	87%	ここ数年コロナ禍において園庭開放を中止したり地域における子育て支援は満足にはできていない。また、地域の子育て支援の理解度が低い職員もいた。
1. 園児の保護者に対する子育て支援 (10項目)	93%	
2. 地域における子育て支援 (8項目)	81%	ここ数年コロナ禍において園庭開放を中止したり地域における子育て支援は満足にはできていない。また、地域の子育て支援の理解度が低い職員もいた。
第5章 職員の資質向上 (15項目)	81%	
合計 (365項目)	84%	